お医者さんに聞く

健康のすすめ

気になるホクロ・イボ、放置しても大丈夫?

誰でも身体のどこかに一つや二つはホクロやイボがあると思います。場所によってはまったく気にならないものですが、大きい、盛り上がっているといった目立つホクロやイボがあると「皮膚がん」が心配になります。皮膚科専門医の岩本和真医師に聞きました。

ホクロやイボって何?

ホクロは黒っぽい色をした直径が5〜6ミリ程度までの小さな皮膚のできものをあらわす俗語で、医学的には「色素性母斑(ぼはん)」「母斑細胞母斑」といいます。良性の母斑細胞の集まりで、メラニンを有するため褐色、茶色、黒色をしています。

一方、イボはウイルスが皮膚に感染することによってできた小さな皮膚の盛り上がりです。黒っぽいとホクロと見分けがつきにくい場合があります。

これらと似たものの中には「メラノーマ(悪性黒色腫)」と呼ばれる皮膚の色素細胞(メラノサイト)ががん化した腫瘍の場合もあるので、適切に見分ける必要があります。

どんな検査をするの?

近年は「ダーモスコープ」と呼ばれる特殊なルーペ(拡大鏡)を用いて病変を撮影し、そのデータを拡大して細部までくわしく観察する検査が行われています。これなら苦痛もなく、しかもその場でホクロやイボの見分け、メラノーマなどの皮膚がんの疑いがあるか、何らかの治療が必要であるかなどを診断することができます。

いずれにしても、ホクロやイボが大きくなった、変色したなど少しでも変化を感じた場合は、専門医に相談することをおすすめします。

どんな治療をするの?

メラノーマが疑われる場合は手術でホクロを摘出し病理組織診断を行います。その後、病理結果と腫瘍の状態に基づいて、治療法が決められます。早期に発見・診断されれば多くの場合は手術のみで治すことが可能です。

良性の場合でも、除去を希望される場合は、メスで切除して縫合する方法やレーザーで削り取る方法などがあります。

今月のアドバイザー

岩本皮ふ科アレルギー科 **岩本和真**院長

広島市西区井口明神1-9-2
(ウォンツ井口明神店南側)
TEL 082-278-3758

皮膚科専門医、アレルギー専門医。JA広島総合病院、ドイツBonn大学皮膚科、広島大学病院で、アレルギー疾患、乾癬、熱傷、皮膚ガンなど幅広い疾患を診療。岩本医院(1983年設立)を引き継ぎ、2020年4月に「岩本皮ふ科アレルギー科」として開院。アトピー性皮膚炎・蕁麻疹などを専門とし、丁寧な診察を心がけている。